

潜在バグへのアプローチ

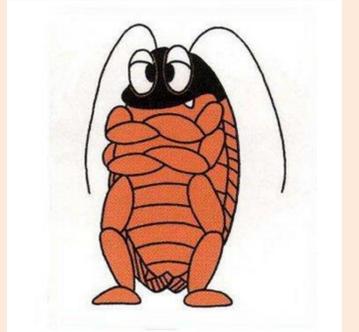


課題：潜在バグを減らす

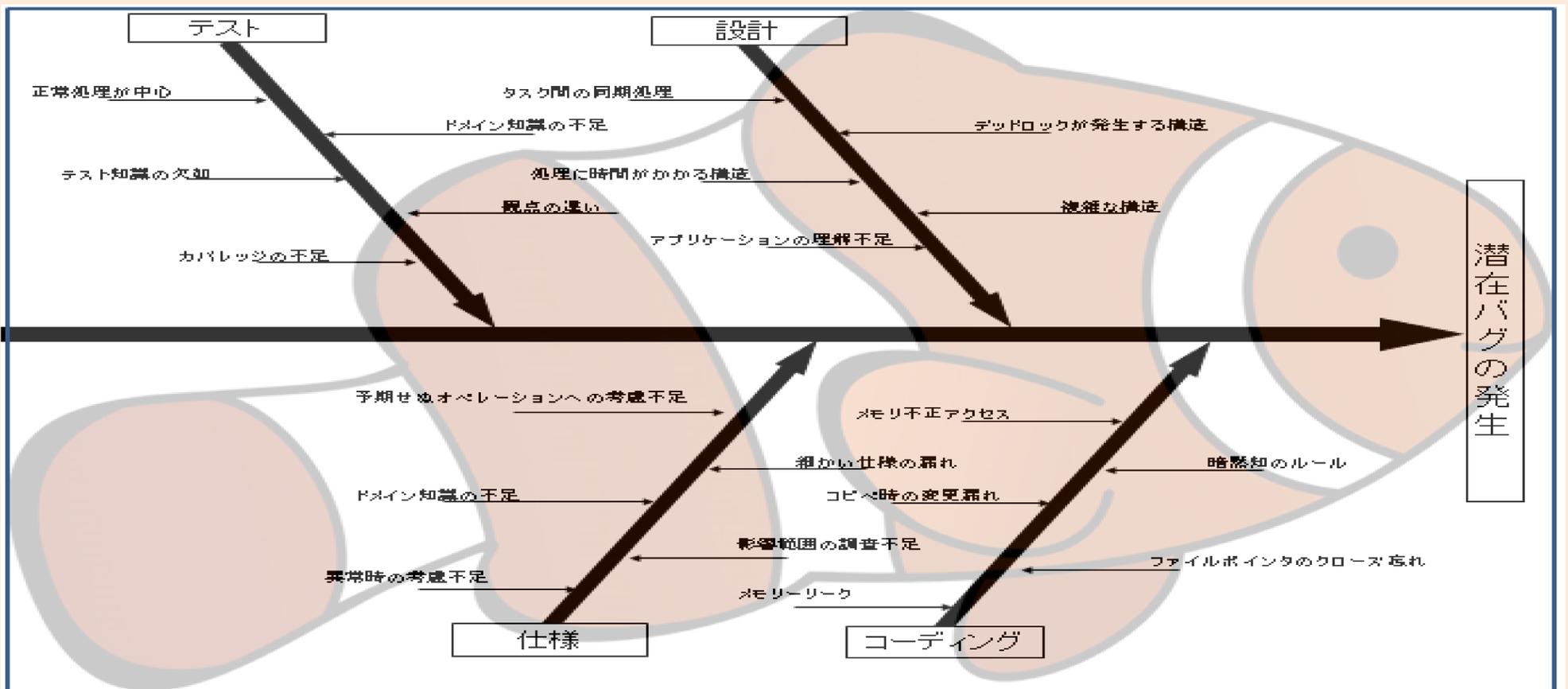
潜在バグ：ソフトウェアリリース後に1年以上経過してカスタマーから報告されるバグ

潜在バグの特徴

- 発生頻度が極端に低い。
- カスタマーのオペレーション方法が変化することで発生する。
- ハードウェアの故障に付随して発生する。
- 時間の経過により発生する。
- 原因がわからず根本的な対策が出来ない。



要因分析



施策

問題点	対策	良い点	問題点
仕様	USDM	未実施	・作成に時間がかかり非現実的
設計	スペックアウト	未実施	・スキルの不足
コーディング	静的解析ツール	コーディングエラーを短時間で検出できた。	・修正により新たなバグが混入 ・量が多く選別するのが困難
テスト	スープカレー表 過去バグの活用	これまでとは違う観点でテストを実施出来た。	・実際の使い方とかけ離れたバグを検出



用語説明

USDM：Universal Specification Describing Mannerの略 要求を仕様化する方法

スープカレー表：TEF-道によりJaSST'09北海道にて紹介されたテスト手法

縦に「機能観点」、横に「顧客観点(過去バグ)」を設定して交点に縦横から得た観点のテストケースを作成する。